

2017 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [つくば市立春日学園義務教育学校] 担当教諭名 [寺島 清一] (7年全組 182名)

相手国・地域 [台湾]

海外学校名 [New Taipei Municipal Fuhe Junior High School] 担当教諭名 [Tiffany Pan]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	英語	台湾交流校に自己紹介・学校(つくば)紹介をしよう	6
	つくばスタイル (総合的な学習の時間)	国際共同壁画制作を完成させよう	26
	学級活動	ソーシャルスキル(共感と働きかけ)	2

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	台湾と日本の伝説
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	先人が残した両国の伝説の意味を読み解き、これから新たな伝説を私たちの力で 創っていこう



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒にとって馴染みのなかった地域(台湾)について調べ、その歴史や文化を調べることで国際的な視野が広がった。 ・自国の伝説とその背景について、調べそれを絵で描写する工程で、伝説への理解が深まった。 ・自分たちで決めた役割のもと、それぞれが得意分野で自分の良さを発揮する場面が確保できた。 ・学級活動で取り組んだ、ソーシャルスキル「仲間づくり」を身近な集団だけでなく、国境を越えて実践する機会を得た。 ・英語の表現力が格段に向上した。(県内の標準学力テストで学年平均正答率が94%に達した)特にテーマ英作文の問題では、県の平均正答率を30ポイントほど上回っている。これは普段の英語授業の書く表現活動の際に、書く対象として、交流相手校の生徒をイメージして取り組んでいることが功を奏していると判断できる。 ・交流校が本校を訪問し交流会を設ける機会を得たことで、生徒のコミュニケーション力の向上に多大な効果があった。 ・TV会議の進行や交流会の計画を通して、生徒の企画力やプロデュースする力が高まった。 ・完成するまでに、様々な段階(ステージ)を乗り越えそれに伴う数々の問題を乗り越えて達成した企画なので、問題解決能力を高める機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体をオーガナイズする教員の配置や計画を、事前に綿密に行う時間的な余裕があれば、この素晴らしい活動を、もっと地元や地域に広報できた。 ・限られた時間内のやり取りなので、交流校間のコミュニケーション手段として、スマートフォンなどモバイルデバイスやLine やスカイプなどが簡易なソフトで実施することがほとんどになってしまった。 ・生徒同士で交流を求めており、メール交流を始めることになったが、本校が生徒一人一人にメールアドレスを割り当てるのに時間を要しており、実現に至っていない。 ・完成させた壁画が手元に残らないことを残念がる生徒・保護者が多い。拡大カラー印刷機等を使って壁画のレプリカを創ったり、完成までの過程を動画やスライドでまとめた「メイキング・オブ・アートマイル壁画」などを制作したりして、次の学年・世代に形として残る手段を考慮したい。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・台湾を身近に感じ始め、テレビで特集される「台湾」に敏感に反応し、「テレビ映像の向こう側に交流校の生徒の姿が浮かぶ」と表現していた。 ・「通じた！」「日本語分かるんだ！」など、実際に教室で行った会話活動で英語が通じた喜びや、日本語でも通じるという事実を知り、国境を越えたコミュニケーションの楽しさを感じていた。 ・台湾の絵の中に、日本と共通する部分を見つけ、「『伝説』も国境を越えてるね」など、相互理解の深まりを感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室内でスカイプを使って台湾の先生方と英語で話し合ったり、筆談でコミュニケーションしたりする姿が日常的になり、「この学校は一気に国際化したな」という声が広がった。 ・台湾に対して美食や観光旅行のイメージが先行していた職員にとって、教育水準の高さや先進的なICT環境に驚愕し、学び合う対象として意識するようになった。 ・国際交流の意義を感じ取り、積極的に教育活動に取り入れようとする声が高まった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・182名全員が自己紹介を英文で作成し送付した。 ・台湾から送られた参加生徒のプロフィールカードを読み共有した。 ・スカイプを使ったテレビ会議で互いの学校を紹介した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書く自己紹介では、書く内容が増え、60語程度で書く生徒がほとんどであった。 ・テレビ会議で紹介するための内容を進んで英文で作成するなど交流に前向きに取り組んでいた。 	英語6 つくスタ6
共有 テーマ学習	10月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝説について調べ学習 ・伝説のメインキャラクターの決定 ・伝説の背景・登場人物について詳細調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に伝わる伝説自体、改めて理解することが多く、日本文化の再認識につながった。 	つくスタ8
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージのイメージ化 ・本校内の担当生徒で構図案作成 ・台湾の担当者や生徒とテレビ会議で検討・決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージ性を強く意識し、それをイメージするのが困難であった。美術教員から提案された「まき絵」に、目を輝かせ、伝説という歴史性、両国文化の今後の物語性、など次々と意味を見出し台湾側に提案した。 	つくスタ6
創造 壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本側担当部分の下絵作成 ・着色活動 ・完成を祝う会 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画作成班が土日に関わらず登校し、下絵作成や着色活動に意欲的に取り組み、経過報告を各クラスで行った。 	つくスタ2
評価 振り返り 自己評価	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・交流校歓迎集会 ・交流授業 ・合同創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・国境を越えて共に壁画を作成した「仲間」と会えた喜びを感じていた。 ・互いに感謝の気持ちを、合同創作活動の中で表現していた。 	つくスタ4 学活2

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	「伝説」という自国文化を理解するうえで新たな観点を得て学習活動が展開できた。
異文化を理解する力	5	今まで観光や食としかイメージがなかった台湾について、実際に調べたり話したりして理解が深まった。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	PCで情報検索や分かったことをレポートすることでスキルが高まった。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	5	TV会議や実際に顔を合わせてのコミュニケーション活動で国境を越えて通じ合う経験をする事ができた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	自分たちの描いた作品と台湾との作品を対比して観賞して、自分たちの作品に対して改善点を述べ合っていた。
主体的に考え行動する力	4	台湾の生徒への紹介活動や絵画イメージ作りで、教員の意見を求める前に、進んで集まり知恵を出し合い活動していた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	互いに得意なことがらを求めあい提供し合って準備を進めた。英語力・絵画表現力・コミュニケーション力を協働して高め合っていた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	伝説をイメージしそれをメッセージ化するのに苦労していたが、教員のアドバイスをもとにアイデア湯水のように膨らみ制作活動に生かした。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	台湾から戻ってきた作品をじっくり観賞し、日本の担当部分と対比しながら感想を書いていた。